



第60回男子・第54回女子プロボウラー資格取得テスト

4月5・6日=東京・品川プリンスホテルBC/大阪・ボウルアロー松原店
7・8日=東京ポートボウル/兵庫・神戸六甲ボウル

東西で男子15名、女子9名が 第1次実技テスト突破!

JPBA第60回男子・第54回女子プロボウラー資格取得テストの第1次実技テストが4月5～8日の4日間、東西の4会場で開催された。受験者は男子37名(東18・西19)、女子13名(東9・西4)の計50名。

新型コロナウイルスの感染拡大が高止まりするなかで、今年も無観客(親族・コーチを含むすべての観戦が不可)での開催となり、受験者はマスクを装着しての過酷なローンバトルを強いられた。

4日間で規定のゲーム数(男子60G・女子48G)を完投し、合格基準点(男子1万2000点=200Avg/女子9120点=190Avg)をクリアして第2次実技テスト進出を果たしたのは、男子15名(東9・西6)、女子9名(東9・西0)の計24名(別表参照)。最高得点は男子が鈴木彪雅さん、女子は大熊飛鳥さん、最年少通過者は男子17歳・女子18歳、同最年長は男子38歳・女子40歳だった。

第2次実技テストの受験者は

男子21名・女子12名の1次免除者を加えた計57名で、すでに2日目までを終了(4月26・27日=大阪・牧野松園ボウル)。残る2日間は5月16・17日に都内王子のサンスクエアボウルで行われる。

両手投げの受験者は10名

今年増えたのは両手投げの受験者だ。1次テストでは東西合わせて10名(男9・女1)が両手投げで、うち男子の5名(東2・西3)が2次進出。1次免除者のなかにも6名(男5・女1)いて、計11名は左投げの6名(男

4・女2)を上回る。ちなみに、東日本会場の6位で1次を突破

した山崎泰樹さんはサウスポー

男子5名・女子2名の現・前ナショナルチームメンバーが名を

連ねており、その合否も注目される。今年度プロテストの最終

結果は次号にて詳細します。



▲1次テスト最終日の会場風景。今年も無観客での開催となり、受験者には4日間投げ続ける体力とともにタフなメンタルが求められた(4月8日、東京ポートボウル)

プロボウラー資格取得テスト第1次合格者

<東日本・男子>

順位	氏名(期別)	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	鈴木 彪雅	東京	右	13,433	223.88
2	小野 在由	東京	右	13,137	218.95
3	千葉 幸太	静岡	右	12,917	215.28
4	福島 和也	埼玉	右両	12,818	213.63
5	上屋敷佑弥	埼玉	右	12,796	213.26
6	山崎 泰樹	埼玉	左両	12,697	211.61
7	田村 優樹	北海道	右	12,674	211.23
8	金子 猛	新潟	右	12,635	210.58
9	齋藤 修平	千葉	右	12,233	203.88

<西日本・男子>

1	河内 唯斗	石川	右	12,890	214.83
2	松崎 清雅	愛知	右	12,708	211.80
3	菊田 樹	愛知	右両	12,188	203.13
4	増田 高英	岐阜	右両	12,186	203.10
5	藤崎 周	大阪	右両	12,143	202.38
6	太田 貴久	和歌山	右	12,046	200.76

<東日本・女子>

1	大熊 飛鳥	埼玉	右	10,075	209.89
2	坂野二イナ	茨城	右	10,068	209.75
3	内田 雪月	埼玉	左	10,059	209.56
4	中嶋 由美	千葉	右	9,880	205.83
5	岩淵 萌香	千葉	右	9,638	200.79
6	森 ひかり	神奈川	右	9,622	200.45
7	美齊津理子	長野	左	9,489	197.68
8	宮入 梨緒	長野	右	9,458	197.04
9	三上 彩奈	茨城	右	9,398	195.79

※西日本・女子は合格者なし



▲アイキョーボウルをホームとする2名がそろって1次突破。中嶋由美さん(左)はLBO(日本女子ボウリング機構=2013年解散)チャーターメンバーのひとり、覚悟のJPBA再挑戦。右の岩淵萌香さんは第3回次世代P★リーガー発掘プロジェクトの合格者で、晴れて合格のあかつきにはP★Leagueデビューが約束されている



▲東日本会場で1次を突破した両手投げの2名。左の山崎泰樹さんはサウスポー、右の福島和也さんは17歳の現役高校生だ

FOCUS UP オーバー60エイジの“ボウリング大好き芸能人”が「本気」のプロテスト挑戦!



▲黒田アーサーさん(左)と近藤信秋さん

黒田アーサーさん(61歳)とBro.KORNこと近藤信秋さん(66歳)。今年の第1次実技テストでいちばんの注目を集めたのは“ボウリング大好き芸能人”として知られるお二人の、「決して遊び半分ではない」果

敢なチャレンジだった。

☆

黒田さんは“還暦のプロテスト初挑戦”が話題となった昨年に続いての受験。30G5155=171.83Avgで2日目の足切りにあった昨年のリベンジを期

したが、結果は同5307=176.90で、今年もホームセンター(東京ポートボウル)への“凱旋”はならなかった。

「去年よりアベレージは上がって、少しは進歩しているという実感はあったけど、まだまだ足りないですね。途中、3ゲームで400いかないシリーズが2度くらいあって、そのときはもうどうしたらいいかと(苦笑)。他の受験者と“引き出し”の数が違いすぎる。もっと経験値を上げていかないとダメですね」

一方、今年が初挑戦の近藤さんも同4823=160.76で玉砕。しかしながら全受験者中の最高齢で2日間30Gを完投した体力と気力は「あっぱれ!」というしかない。

「受験はアーサーに感化された部分もあるけど、ボク自身プロテストの雰囲気を知ってみたいかったし、ボウリングを職業にしようと思ってきている若い人たちのボウラーマインドも感じてみたい。で、やっぱりすごいな、ハンパねえな、と。

最初は打てなくて恥ずかしいなという思いもあったけど、投げているうちにどんどん楽しくなった。テストなのに(笑)」

思い知った「プロのすごさ」

そんなお二人が「改めて思い知った」と口を揃えたのが「プロのバッジ(ワッペン)を着けている人たちのすごさ」だ。

「われわれも決して遊び半分で受けにきたわけじゃない。真剣に投げたし、本気で受かるつもりだった。でもやっぱりレベルが高い。そのテストをクリアしてプロになった人のすごさを、競技ボウリングを知らない人たちにも分かってもらいたい

し、それを伝えていくこともわれわれの役目だと思っています」(黒田さん)

足切りが確実となった後も投げやりにならず、ラストゲームでは黒田さん201、近藤さん213と、ともに200アップのスコアをマーク。「今回は一時186までアベレージが上がって、ちょっとチャンスが見えた瞬間もあったので、来年こそは合格ラインを見据えて投げたい」と黒田さんが言えば、近藤さんも「体がもてば、ボクも来年また受けようと思っている」と再挑戦の意向を示す。

お二人のあくなきチャレンジスピリットに、乾杯!



▲ラストゲーム中のお二人。ともに200アップで有終の美